

科目名	メディア・ジャーナリズム実践演習Ⅲ 一調査・実習編一	担当教員	佐々木 伸
科目属性	専門科目群E	単位数	2単位(面接0.5単位)
<p><b>【授業概要】</b></p> <p>ジャーナリズム・メディアの実践を学ぶ。ジャーナリズムの基本を学習したのを踏まえ、本講では、実際の取材・調査・インタビュー、執筆などを通し、「真実、独立・公正」という3原則を順守しながら報道活動を体験、ニュースができるまでの過程を探求する。またストレートニュースだけではなく、解説、サイド、企画、コラム、社説などの書き方を学ぶ。</p> <p>とりわけインターネットやSNS時代のジャーナリズム活動の難しさを把握し、フェイクニュースが生まれる背景を考察する。誰もがニュースを送受信できることはそれまで既存のマスコミに委ねられていたニュースの製造、配信がもはや彼らの特権ではなくなったことをあらためて理解し、不確実な情報が氾濫する社会での共生の在り方を考察する。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、実際の取材・執筆を実践してニュースのできるまでを体験、ジャーナリズム・メディアの果たすべき役割と責任、その可能性を探求する。</li> <li>2、政治、事件・事故、経済、国際、スポーツなど具体的な専門分野の取材・執筆方法、文章論を学ぶ。</li> <li>3、なまニュース以外の解説、サイド、コラム、社説、企画などの執筆方法と日常的な勉強の重要性を理解する。</li> <li>4、インターネット時代のジャーナリズム・メディアの背景と問題点を考察し、フェイクニュースの見分け方などを身に着ける。</li> <li>5、ジャーナリストには高い倫理観とプロ意識が求められていることを理解する。</li> </ol> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>授業計画としては以下の15回におよぶ内容となるが、教科書「実践ジャーナリズム養成講座」「レジュメ」に基づいて学習し、その総括的なスクーリングを行い、突っ込んだ討議を行う。そしてスクーリングで討議された内容を踏まえながら、第2回スクーリング2週間前までにレポートを提出し、2回のスクーリング終了後、最後に科目修得試験に臨むこと。</p> <p>その上で、下記のような割合で総合評価を下すという形にする（2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、ポスト・トゥルースの時代—激変したジャーナリズム・メディア環境</li> <li>2、取材・執筆の実践（1）政治報道</li> <li>3、同上（2）事件報道（火事、殺人、疑獄事件）</li> <li>4、同上（3）事故報道（災害、大震災）</li> <li>5、同上（4）経済・金融報道</li> <li>6、同上（5）国際報道</li> </ol>			

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 7、同上                 | (6) 戦争・紛争など危険地取材      |
| 8、同上                 | (7) 写真と映像報道—百聞は一見に如かず |
| 9、解説・サイド・企画・社説記事     |                       |
| 10、実名報道と匿名報道         |                       |
| 11、情報源とその秘匿          |                       |
| 12、人権とメディアスクラム       |                       |
| 13、SNSとフェイクニュース      |                       |
| 14、日米の報道比較—組織型と個人主義型 |                       |
| 15、記者クラブ問題           |                       |

**【評価方法】**

評価は、スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、「科目修得試験」(50%)の割合で行います。

**【教科書】**

- 「ジャーナリズムの倫理と規範」(新聞通信調査会)
- 「実践ジャーナリズム養成講座」(花田達朗編著、平凡社)
- 「レジュメ・ジャーナリズムの役割特論」(佐々木伸)

**【参考図書】**

- 「メディアと政治」(芹川洋一、蒲島郁夫 有斐閣)
- 「ジャーナリズムと権力」(大石裕編 世界思想社)
- 「ネットメディア覇権戦争」(藤代裕之 光文社新書)